

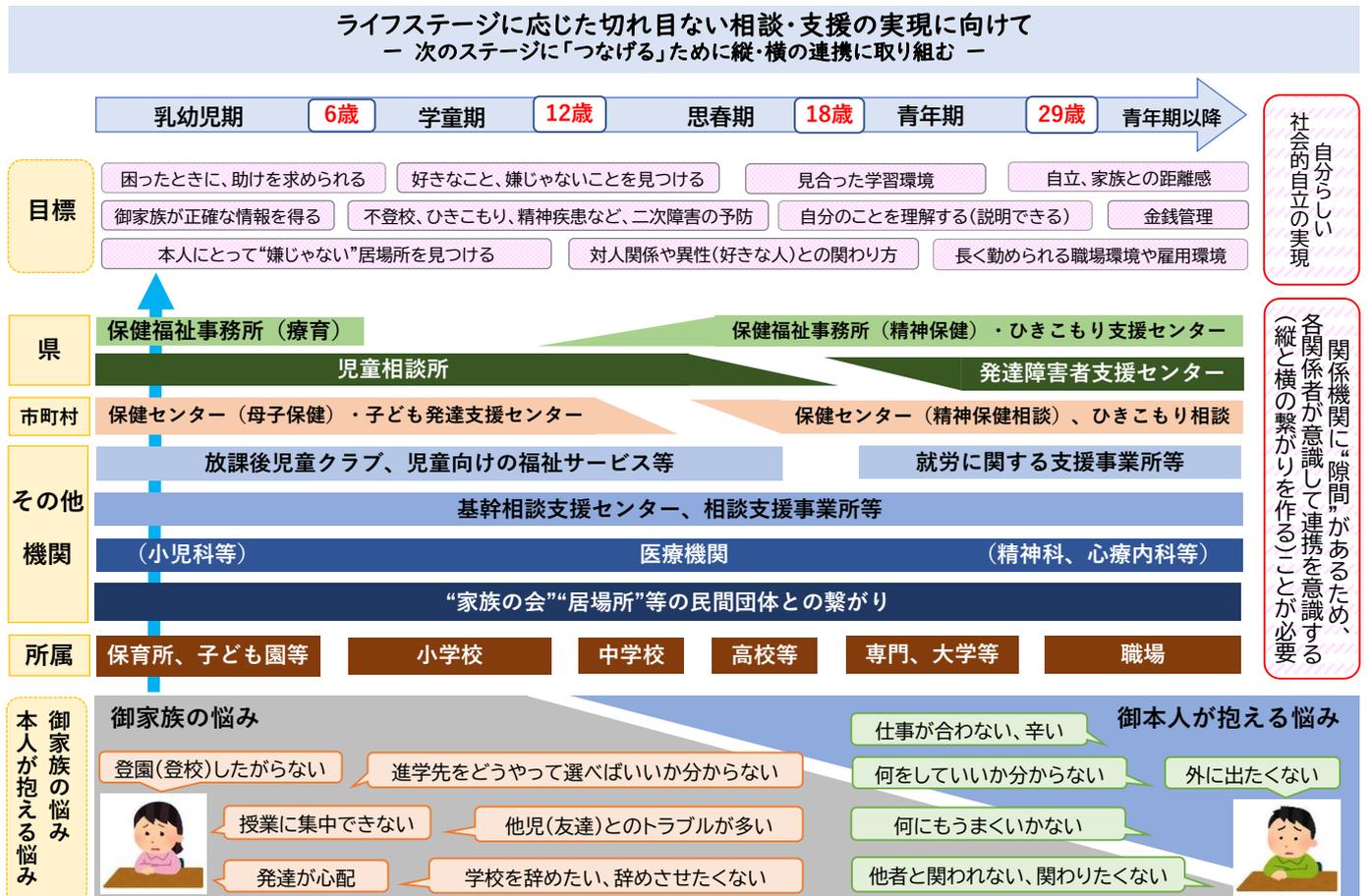
発達特性がある子ども・若者の社会的自立支援ガイド（後編）

このガイドは、発達障害の診断の有無に関係なく、発達の特性がある本人やその御家族が抱える悩みや不安・心配に対して、その社会的自立に向けた相談・支援に関する情報をライフステージ（年齢）ごとにまとめています。前編は【乳幼児期・学齢期】における身近な地域の保健センターや児童発達支援センターの役割、小・中学校における支援対応、児童相談所の役割等を紹介しています。後編では、【思春期・青年期】における「進学」「就労」に関する支援情報をまとめました。

この時期は、自分らしい社会的自立の実現に向けて、自分に合った学習環境を選んだり、長く勤められる職場環境や雇用環境を求めたりする大事な進路選択を迫られます。また、人との関わりを通して自分のことを理解（説明）できたり、対人関係や異性との関わり方を学んだりする大切な成育期でもあります。一方、本人が「何にもうまくいかなしい」「仕事が合わない、辛い」「他者と関われない、関わりたくない」等と苦しんだり、御家族が「進学先をどうやって選べばいいかわからない」「学校を辞めたい、辞めさせたくない」等といった悩みを抱えたりすることもあります。発達特性がある場合、時には二次的な問題（不登校、ひきこもり、非行、うつ、強迫症状等の精神症状など）発生の要因になることもあります。

そうした時、本人が関係する機関から適切な助言や必要な支援を受けながら、自分自身の好きなことや得意なこと、苦手なことや避けたいことなどの「自己認知」を高めて、学校・職場等で円滑な社会生活を送っていくことができれば、自分らしい社会的自立に向けた歩みが一層進むのではないかと考えます。

私たちには、こうした子ども・若者が自信を持って一步を踏み出せるように支援していくことが期待されています。同時に、当事者にとって多様な支援・対応が切れ目なくつながるように適切な支援情報を提供するとともに、関係機関につないでいくために積極的に連携を働きかけていくことが求められています。



もくじ

1 社会的自立を前にした不安・心配とは	1～4頁
(1) 本人が今の自分を語る	
① 「フルタイムで働く自信がありません」(Aさんの場合)	
② 「今は働くことはできるけど、スタートダッシュは無理だ」(Bさんの場合)	
③ 「自分は普通の人と違っている」と思っていた(Cさんの場合)	
(2) 親御さんが心配していること	
① 「我が子の働くことへ不安を感じている」(D親の会)	
② 「我が子の進学、就労への不安とその支援」(E親の会 代表)	
2 発達特性がある子ども・若者の「自己認知」の支援	5～8頁
(1) 発達障害者支援センター	
(2) 医療的視点からの「自己認知」支援とは	
3 「高校進学」への不安・心配への対応	9～12頁
(1) 進路決定まで	
(2) 県立高校における支援	
(3) 私立通信制(広域通信制)高校の特徴	
4 発達特性がある方の「就労」までの支援	13～18頁
(1) 就職を考えている、就職先を見つけない	
(2) 働くことに悩みや不安がある	
【事例】	
① 訪問支援員(NPO法人CCM委託)報告「高校を中退したW君が働き始めるまで」	
② NPO法人HOME「皆が主役になれる、その人の良さを発揮できる居場所を作りたい」	
③ 有限会社 瀧村造園「それぞれの特性を受け入れながら『やる気』を伸ばします」	
5 その他	19～22頁
令和5年度「県・市町村青少年相談担当職員研修会」【意見交換】要約	
6 資料編 【支援機関連絡先一覧】	23～28頁
県・市町村・教育委員会の相談窓口、就労の相談、専門機関など	